

ジャガイモ*1 (野菜類、イモ類の登録農薬も使用できる)

薬剤名	作用機 構分類 コード	人 畜 毒 性	使 用 時 期 (日 数)	使 用 回 数	そ う か 病	粉 状 そ う か 病	疫 病	夏 疫 病	菌 核 病	灰 色 か び 病	黒 あ ざ 病	銀 か 病	黒 あ し 病	青 枯 病	軟 腐 病	塊 茎 褐 色 輪 紋 病
I C ボルドー66DFL	M1		-	-			◎									
Z ボルドー水	M1		-	-			◎									
クプロシールドFL	M1		-	-			◎								◎	
クミガードSC	M1		-	-			◎								◎	
コサイド3000DF	M1		*a	-	◎											
ドイツボルドーA水	M1		-	-			◎									
バイオキパー水	-		*c	-												◎
ジーファイン水	NC・M1		1	-			◎									
スターナ水	31		7	5												◎
トップジンM水㊦	1		7	5					◎							
ベンレート水㊧	1		*a	1						◎						
エトフィンFL	22		7	4			◎									
カナメFL	7	劇	*a	1							◎					
			1	3				◎								
バシタック水75	7		*d	1							◎					
モンカットFL40	7		*a	1							◎					
ミリオネアFL	7	劇	*a	1							◎					
			1	3				◎								
アミスター20FL	11		*a	1							◎					
			*b	1							◎	◎				
			7	3			◎	◎								
オラクル顆水	21		*a	1		◎										
オラクル粉	21		*a	1		◎										
ライメイFL	21		7	4			◎									
ランマンFL	21		7	4			◎									
フロンサイドSC	29		*a	1	◎	◎										
			7	4			◎	◎	◎							
フロンサイド水	29		*a	1	◎	◎										◎
			14	4			◎	◎	◎							
フロンサイド粉	29		*a	1	◎	◎										
アグレプト液	25		*a	1	◎								◎			
			7	5												◎
セイビアーFL20	12		*a	1	◎											
スマレックス水	2		21	4					◎							
ロブラール水	2		*a	1					◎	◎		◎				
			1	4				◎	◎							
リゾレックス水	14		*d	1							◎					
フェスティバル水	40		14	3			◎									
レーバスFL	40		7	2			◎									
ネビジン粉	36		*b	1	◎	◎										
			*a	1							◎					
バリダシン液5	U18		*d	1							◎					
			3	6										◎	◎	

ジャガイモ

ジャガイモ^{*1} (野菜類、イモ類の登録農薬も使用できる)

薬剤名	作用機 構分類 コード	人畜 毒 性	使用 時期 (日数)	使 用 回 数	そ う か 病	粉 状 そ う か 病	疫 病	夏 疫 病	菌 核 病	灰 色 か び 病	黒 あ ざ 病	銀 か 病	黒 あ し 病	青 枯 病	軟 腐 病	塊 茎 褐 色 輪 紋 病
バリダシン粉DL	U18		*a	1							◎					
ヨネボン水	M1		1	4			◎									◎
ヨネボン乳	M1		*a	1	◎											
ジマンダイセン水	M3		7	10			◎	◎								
ペンコゼブ水	M3		7	10			◎	◎								
ダコニール1000FL	M5		7	5			◎	◎								
ベルコート水	M7		7	5				◎								
リドミルゴールドMZ 顆水	4・M3		30	1			◎									
フオリオゴールドFL	4・M5		7	3			◎									
カセット水	31・24		*a	1	◎											◎
			7	3												◎
マテリーナ水	31・25		7	3												◎
アタッキン水 [㊦]	1・25		*a	1	◎						◎		◎			
ラビライト水 [㊦]	1・M3		14	4			◎									
モンカットプラスFL	7・12		*a	1	◎						◎					
ゾーバックエンカン ティアSE	11・49		14	3			◎	◎								
ホライズンDF	11・27		14	4			◎	◎								
ダイナモ顆水	21・27		7	4			◎									
アグリマイシン-100水	25・41		*a	1	◎									◎		
			3	5			◎									◎
ベトファイター顆水	40・27		7	4			◎									
カンパネラ水	40・M3		7	5			◎									
ベネセット水	40・M5		7	3			◎	◎								
カーニバル水	40・M5		7	5			◎	◎								
プロポーズ顆水	40・M5		7	5			◎	◎								
カーゼートPZ水	27・M3		7	4			◎									
ブリザード水	27・M5		7	4			◎	◎		◎						

㊦:チオファネートメチル含有剤 ◎:ベニミル含有剤 ㊦を使用した場合には同じ作での◎は使用しないこと。その逆も同様 (種子への処理および塗布処理を除く、詳細はP. 856参照)。*1:ジャガイモ…バレイショ

*a:植付前 *b:植付時 *c:発病前～発病初期 *d:貯蔵前又は植付前

ジャガイモ*1 (野菜類、イモ類の登録農薬も使用できる)

薬剤名	作用機 構分類 コード	人畜 毒 性	使用 時期 (日数)	使 用 回 数	ア ブ ラ ム シ 類	ジ ャ ガ イ モ ガ	ヨ ト ウ ム シ	ハ ス モ ン ヨ ト ウ	オ オ タ バ コ ガ	ネ キ リ ム シ 類	※ ナス トビ ハム シ	※ ナス ノミ ハム シ	テ ン ト ウ ム シ ダ マ シ 類	ケ ラ	セ ン チ ユ ウ 類
バイデートL粒	1A	劇	*a	1	◎										
マイクロデナボン水85	1A	劇	7	3			◎	◎					オ		
オルトラン水	1B		30	2	◎	◎	◎						幼		
オルトラン粒	1B		*b	1	◎										
ジェイエース溶	1B		30	2	◎		◎						オ		
スミチオン乳	1B		3	6	◎								◎		
ダイアジノン乳40	1B	劇	7	3	◎								テ		
ダイアジノン粒5	1B		*a	1						◎				◎	
ネマキック粒	1B		*a	1											ア
ネマトリンエース粒	1B		*a	1	◎										ア
アグロスリン水	3A	劇	7	4	◎										
アディオン乳	3A		14	4	◎								◎		
ガードベイトA粒	3A		*c	4						◎					
ゲットアウトWDG	3A	劇	7	4	◎						◎				
テルスター水	3A		3	4	◎										
トレボンMC	3A		7	3	◎										
トレボン乳	3A		7	3	◎										
アクタラ顆溶	4A		14	3	◎						◎		◎		
			*b	1	◎						◎				
アクタラ粒5	4A		*b	1	◎										
アドマイヤー顆水	4A	劇	14	2	◎								オ		
アドマイヤー1粒	4A		*b	1	◎										
アルバリン顆溶	4A		7	2	ワ										
スタークル顆溶	4A		7	2	ワ										
ダントツ溶	4A		7	3	◎								◎		
ダントツ粒	4A		*b	1	◎										
バリアード顆水	4A	劇	7	3	◎										
ベストガード溶	4A		14	4	◎										
ベストガード粒	4A		*a	1	◎										
モスピラン顆溶	4A	劇	7	3	◎	◎							◎		
モスピラン粒	4A		*b	1	◎										
ピレスコ顆水	4C		7	3	◎										
トランスフォームFL	4C		7	3	◎										
ディアナSC	5		1	2					◎						
コルト顆水	9B		1	3	◎										

ジャガイモ

ジャガイモ*1 (野菜類、イモ類の登録農薬も使用できる)

薬剤名	作用機構分類コード	人畜毒性	使用時期(日数)	使用回数	アブラムシ類	ジャガイモガ	ヨトウムシ	ハスモンヨトウ	オオタバコガ	ネキリムシ類	※ナスノミハムシ類	テントウムシダマシ類	ケラ	センチュウ類
チェス顆水	9B		14	3	◎									
バダんSG溶	14	劇	7	6		若								
マッチ乳	15		7	2				◎						
ハチハチ乳	21A	劇	1	2	◎					◎				
モベントFL	23		7	3	◎									
フェニックス顆水	28		1	2		◎		◎						
ベネビアOD	28		7	3	◎			◎						
ウララDF	29		7	2	◎									
プレオFL	UN		7	2				◎	◎					
ビーラム粒	-		*a	1										ア
ミネクトスター顆水	9B・28		14	3	◎						◎			

*1:ジャガイモ…バレイシヨ

*a:植付前 *b:植付時 *c:生育初期

ア:ネコブセンチュウ、ネグサレセンチュウ、ジャガイモシストセンチュウ、ジャガイモシロシストセンチュウ イ:ネグサレセンチュウ、ジャガイモシストセンチュウ、ジャガイモシロシストセンチュウ

オ:オオニジュウヤホシテントウ グ:ネグサレセンチュウ

テ:テントウムシダマシ ワ:ワタアブラムシ

若:若齢幼虫 幼:テントウムシダマシ幼虫

※:ナスノミハムシとナストビハムシは同じ害虫

ジャガイモ(野菜類、イモ類の登録農薬も使用できる)

主要病害虫発生消長	1月	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
病害	普通											
	乾腐病											
虫	アブラムシ類											
害	ニジュウヤホシテントウ											

ジャガイモ収穫後はナス・トマトに寄生

作型 — ; 栽培期 — ; 収穫期
 病害虫発生消長 — ; 発生期 — ; 発生盛期

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
そうか病	植付前	<ol style="list-style-type: none"> 種いもは健全なものを選ぶ。 種いもを切断する前に、次の薬剤のいずれかを処理する。 アタッキン水和剤 40～60倍 5～10秒浸漬 40倍 2.5～3L散布/ 種いも100kg フロンサイド水和剤 100倍 瞬間浸漬 酸度矯正を行う。 常発畑では土壤消毒を行うか(土壤消毒の項参照)、次の薬剤のいずれかを全面土壤混和する。 ネビジン粉剤 60kg/10 a フロンサイド粉剤 30～40kg/10 a 	中性、アルカリ性土壤や、通気性よく、乾燥しやすい土壤にてやすい。 未分解有機物を施用すると多発しやすい。
粉状そうか病	植付前	<ol style="list-style-type: none"> 種いもは健全なものを選ぶ。 連作をさける。 排水不良畑での栽培をさける。 常発畑では土壤消毒を行うか(土壤消毒の項参照)、次の薬剤のいずれかを全面土壤混和する。 ネビジン粉剤 60kg/10 a フロンサイド粉剤 30～40kg/10 a 	低温、多湿の年に多発しやすい。鶏ふん施用は発生が多くなる。そうか病とは逆に酸性土壤で発生しやすい。
疫病	植付前 6月上旬～中旬	<ol style="list-style-type: none"> 種いもは健全なものを用いる。 次の薬剤のいずれかを散布する。 アグリマイシン-100(水) 1000倍 アミスター20フロアブル 3000～4000倍 プロポーズ顆粒水和剤 750～1000倍 ホライズンドライフロアブル 1000～2500倍 リドミルゴールドMZ(顆水) 500～1000倍 	ジャガイモ、トマトに発生し、被害種いもによって伝搬される。 低温(20℃前後)で雨の多い梅雨期に発生する。

ジャガイモ(野菜類、イモ類の登録農薬も使用できる)

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
黒あざ病	植付前	<p>1. 種いもは健全なものを選ぶ。</p> <p>2. 種いもを次の薬剤のいずれかで処理する。</p> <p>アタッキン水和剤 40倍 5～10秒浸漬、または 2.5～3L散布/種いも100kg</p> <p>バシタック水和剤75 70～100倍液 5～20秒浸漬</p> <p>モンカットフロアブル40 100～200倍液 瞬時～10分浸漬</p> <p>ロブラール水和剤 125倍 3L散布/種いも100kg</p>	本病はリゾクトニア菌による。
軟腐病	植付前	<p>1. 湿地では排水につとめる。</p> <p>2. 窒素過多とならぬよう注意する。</p>	ほとんどの野菜類に発生し、病原細菌は土中で越冬し、傷口から侵入する。 罹病した塊茎は貯蔵中に発病し、周囲の健全いもに感染するので、貯蔵前の選別を徹底する。 *野菜類(キャベツを除く)での登録
	生育期	<p>・発生が認められたら初期に次のいずれかの薬剤を散布する。</p> <p>アグリマイシン-100(水) 1000～1600倍</p> <p>スターナ水和剤 1000倍</p> <p>Zボルドー(水) * 500～1000倍</p>	
	収穫期	<p>・収穫時はできるだけいもを傷つけないようにし、無傷のいもだけを貯蔵する。</p>	
ウイルス病	植付前	<p>・種いもは国の検査に合格したものをを用いる。</p>	葉巻病、モザイク病、萎縮病などがある。
	生育期	<p>・アブラムシ類を防除する(アブラムシの項参照)。</p>	
アブラムシ類	植付時	<p>・次の薬剤を植溝に施用して土壌混和する。</p> <p>モスピラン粒剤 3～6kg/10a</p>	
	生育期	<p>・発生をみたら次の薬剤のいずれかを散布する。</p> <p>アデオン乳剤 2000～3000倍</p> <p>アドマイヤー顆粒水和剤 5000～15000倍</p> <p>ウララDF 2000～4000倍</p> <p>オルトラン水和剤 1000～1500倍</p> <p>ダイアジノン乳剤40 1000倍</p> <p>モスピラン顆粒水溶剤 2000～6000倍</p>	

ジャガイモ(野菜類、イモ類の登録農薬も使用できる)

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
ジャガイモガ	生育期	<ul style="list-style-type: none"> ・ 幼虫発生期に次の薬剤のいずれかを茎葉に散布する。 オルトラン水和剤 1000～1500倍 モスピラン顆粒水溶剤 2000倍 	年に5～6回くらい発生する。茎葉の被害は目立たないが、いもでは貯蔵中に大被害を与える。
	収穫後	<ol style="list-style-type: none"> 1. 発生地では残茎葉を処分する。 2. 掘り採ったいもは、すみやかにコモなどで覆い、露出させておかない。 3. 屑いもは放置しないで、土中に埋没する。 	
ヨトウムシ	5月中旬～下旬	<ul style="list-style-type: none"> ・ 発生をみたら次の薬剤のいずれかを散布する。 オルトラン水和剤 1000倍 ジェイエース水溶剤 1000倍 	
ネキリムシ類	植付前	<ul style="list-style-type: none"> ・ 次の薬剤を散布し、土と混合する。 ダイアジノン粒剤5 4～6kg/10 a 	
テントウムシダマシ類(ニジュウヤホシテントウ・オオニジュウヤホシテントウ)	生育期	<ul style="list-style-type: none"> ・ 発生をみたら次の薬剤のいずれかを散布する。 オルトラン水和剤#1 1000倍 ダイアジノン乳剤#2 1000倍 ダントツ水溶剤 2000～4000倍 	幼虫は葉裏に寄生加害しているのので、薬剤は葉裏によくかける。 ジャガイモを加害したあとナス、トマト、ゴボウなどに移り、被害を与える。 #1テントウムシダマシ幼虫で登録 #2テントウムシダマシで登録
ハリガネムシ	植付前	<ul style="list-style-type: none"> ・ 土壌消毒を行う(土壌消毒の項参照)。 	